

新潟水俣病地域福祉推進条例

「県の基本的施策」に基づく取組について

～ 平成 21 年度・平成 22 年度実績、平成 23 年度の実施状況 ～

〈 第 5 条 県の基本的施策 〉

1 新潟水俣病患者への保健・福祉対策

新潟水俣病患者の福祉の増進を図るため、療養等による経済的負担の軽減を目的とした手当の支給や、患者の心身の状況等に応じた保健や福祉に関する取組を行う。

2 地域社会の再生・融和の促進

新潟水俣病によって人々の絆に深刻な影響を受けた地域社会の再生と融和が図られるよう、新潟水俣病の被害者を含めた地域住民の交流を促進する取組を行う。

3 教育・啓発の推進

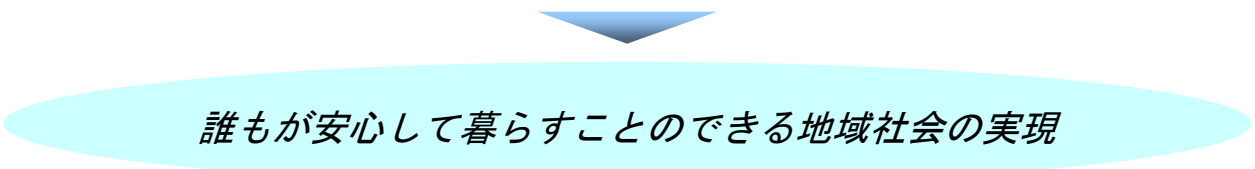
県民が、新潟水俣病についての正しい理解を深め、新潟水俣病の歴史と教訓を将来に伝えることができるよう、新潟水俣病に関する教育の推進や啓発活動の充実などを行う。

4 民間団体等の活動の促進

民間団体等が自発的に行う新潟水俣病の歴史と教訓を伝える活動や、新潟水俣病により生じた問題の解決のための活動が促進されるように努める。

5 ふれあい館の活用と情報発信

教育の推進や啓発活動の充実、民間団体等の活動を促進するため、新潟県立環境と人間のふれあい館（以下、「ふれあい館」という）を活用した新潟水俣病に関する情報の発信や提供を行う。



誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現

1 新潟水俣病患者の保健・福祉対策

■訪問保健指導事業

新潟水俣病患者の健康不安等を解消するため、保健師等が患者の家庭を訪問し、健康管理指導等を実施します。

- 認定患者に対しては、県の保健師が実施
 - 医療手帳、保健手帳、被害者手帳所持者に対しては、五泉市、阿賀野市、阿賀町の保健師が実施（県から委託）
- ※新潟市の認定患者・手帳所持者については、新潟市の保健師等が実施

【H21年度】

- 訪問件数：108件

【H22年度】

- 訪問件数：116件

【H23年度】

- 訪問件数：今後訪問の予定

■相談窓口体制整備事業

新潟水俣病発生地域に居住する住民の健康不安や、水俣病諸制度の案内・受付を始めとした幅広い相談等に応じるため、総合的な相談窓口を設置します。

- 五泉市、阿賀野市、阿賀町の各市役所・町役場の本所及び支所に年間を通じて相談窓口を設置（県から委託）
 - 設置数：計10か所
- ※新潟市は保健衛生総務課のほか、各区役所、地域保健福祉センターに設置〔計18か所〕

【H21年度】

- 相談件数：273件

【H22年度】

- 相談件数：676件

【H23年度】

- 相談件数：388件（10月末現在）
- 主な相談内容
 - ・「新潟水俣病福祉手当」や「特措法に係る給付の申請」、その他公健法に基づく「認定申請」など、水俣病に関する各種制度の申請等に関する事
 - ・水俣病関係の各種手帳の利用に関する事
 - ・しびれやふるえ、その他健康不安に関する事



(相談窓口チラシ)

■介護予防在宅支援事業

新潟水俣病患者の生活の質の向上のため、平成21年度に作成した患者が抱えている症状の緩和方法等についてのハンドブック及び保健・医療・福祉専門職用ガイドブックをもとに、保健・福祉関係者等への研修会を実施するとともに、新潟水俣病発生地域において健康教室を開催します。

【H21年度】

- 新潟水俣病患者50名に聞き取り調査を実施
- 聞き取り調査の結果をもとに、ハンドブックを作成
 - ※新潟市と共同で、新潟大学医学部保健学科に委託して実施

【H22年度】

- H21年度に作成したハンドブックを被害者の方々、関係者、流域市町等に配付
- 流域の保健・医療・福祉関係者への研修会を開催
 - ・五泉市会場 開催日：12月14日、参加者：28名
 - ・阿賀野市会場 開催日：12月20日、参加者：35名

【H23年度】

- 流域の保健・医療・福祉関係者への研修会を開催予定
 - ・五泉市会場：12月15日
 - ・阿賀野市会場：12月13日
- 阿賀野市に委託して新潟水俣病発生地域における健康教室事業を実施予定
 - ・市内の特定地域にて、1～2月頃、新潟水俣病患者を含めた地域の高齢者等を対象にした健康教室を実施
 - ・水俣病の症状や対処方法を学び水俣病に対する理解を深めるとともに、健康体操やレクリエーションの実施により心身機能の向上を図るなど介護予防への支援を実施



(ハンドブック表紙)

■水俣病研究委託事業

水俣病に関する研究成果の蓄積が、水俣病の検査や診断等に資することを目的として、水俣病に関する調査研究を新潟大学に委託します。

- 同研究は、新潟水俣病の症状が多岐にわたることから、各科ごとに研究課題を設定し実施
- 実際の検査や診断に反映させていくためには、長年にわたり研究成果を蓄積していくことが重要

【H21年度】

- 新潟大学医学部神経内科、眼科、耳鼻咽喉科で実施

【H22年度】

○新潟大学医学部神経内科、眼科、耳鼻咽喉科で実施

【H23年度】

○新潟大学医学部神経内科、眼科、耳鼻咽喉科で実施

■新潟水俣病福祉手当

新潟水俣病患者の療養及び健康管理等に係る経済的負担の軽減を図るため、新潟水俣病福祉手当を支給します。

○支給対象者：新潟水俣病患者

- ・新潟水俣病の原因であるメチル水銀が蓄積した阿賀野川の魚介類を摂取したことにより通常のレベルを超えるメチル水銀にばく露した者であって水俣病の症状を有する者（条例第2条）

※公健法により水俣病の認定を受けた者を除く

○支給額：月額7,000円

※新潟市居住者分については、新潟市が費用の1/2を負担

○支給月：2月、6月、10月（末日支給）

○支給開始月：申請日の翌月分から支給（H21年4月から受付開始）

【H21年度】

○支給対象者数：788名（H22年3月末現在）

【H22年度】

○支給対象者数：1,053名（H23年3月末現在）

【H23年度】

○支給対象者数：1,395名（H23年10月末現在）

2 地域社会の再生・融和の促進

■阿賀野川流域地域フィールドミュージアム（FM）事業

阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、新潟水俣病の教訓を伝える環境学習や、光と影をテーマとしたイベント、地域の人々との話し合いなど、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指した様々なプロジェクトを展開します。

《環境学習分野》

- 今日にも通じる新潟水俣病の教訓を未来に活かせる環境学習を目指し、『阿賀野川え〜とこだ！環境学習』を構築

【H21年度】

- 阿賀野川流域の環境の専門家や NPO などが参加した「環境理念ワーキングチーム」において議論を重ね、環境学習の「基本理念」の原案を策定
- 明治期に鉱山業で繁栄するとともに煙害など公害の兆しも現れた「草倉銅山」を舞台とした環境学習プログラムの策定に着手

【H22年度】

- 環境学習「基本理念」の完成
 - ・基本理念の原案について、ロバダンなどを通じ流域の様々な意見を参考にして環境学習「基本理念」を完成
- 環境学習プログラム試行版の実施
 - ・「新潟水俣病スタディツアー」で鹿瀬地域を舞台とした環境学習プログラムの試行版を実施
 - ・公害問題と地域の再生を学ぶため、県外から多くの大学生や教員が来訪
 - ・開催日：8月6日、参加者：43名
- 環境学習プログラム試行版を基に、プログラムを2コース策定（草倉銅山の光と影を辿るコース、新潟水俣病と昭和電工(株)鹿瀬工場の光と影を辿るコース）



(環境学習プログラム試行版「新潟水俣病スタディツアー」の様子)

【H23年度】

- 環境学習プログラムの実施
 - ・「あがのがわ環境学習ツアー」で阿賀町鹿瀬地域など阿賀野川流域を舞台とした環境学習プログラムを実施
 - ・公害問題と地域の再生を学ぶため、首都圏の大学から大学生や教員等が来訪
 - ・開催日：8月10日～12日、参加者：6名
- 更なる環境学習プログラムの策定の検討



(「あがのがわ環境学習ツアー」の様子)

《イベント分野》

- 地域住民と共に、自らの地域の歴史に向き合い見つめ直してもらう機会として阿賀野川の歴史・生活・文化の光と影や地域のあり方について考えを深める講座やパネル展の実施、FM事業の取組を広く周知するフォーラムの開催等

【H21年度】

- 「草倉銅山の光と影を辿る環境学習ツアー」を開催
 - ・主に地元阿賀町の方々を中心に、紙芝居「草倉銅山物語」や草倉銅山のパネルを見学した後、実際に草倉銅山跡など現地を巡る
 - ・開催日：10月25日、参加者：約35名
- パネル巡回展「草倉銅山の光と影～鉱山に魅せられた人々～」を開催
 - ・草倉銅山の繁栄と公害の兆しをテーマとしたパネルを作製
 - ・12月～3月にかけて阿賀町の旅館・ホテルの5会場等を巡回
- 第2回地域再発見講座「ハーモニカ長屋（昭和電工(株)鹿瀬工場社宅）から眺めた風景～鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」を開催（第1回地域再発見講座は、H21年3月に開催）
 - ・阿賀野川流域、特に鹿瀬地域の当時の状況を多面的に捉え直し、これからの時代に活かせるものを学ぶ講座
 - ・ハーモニカ長屋と呼ばれた社宅で暮らしていた方をゲストに迎え、座談会形式で社宅での生活や文化などを当時の写真とともに語り合う
 - ・開催日：3月28日、会場：阿賀町、参加者：約60名

【H22年度】

- 第3回地域再発見講座「～紙芝居と昔の写真を通してよみがえる～阿賀野川の忘れられた光と影」を開催
 - ・紙芝居「阿賀野川物語」を上演し、阿賀野川の歴史を辿る中で、本当の豊かさを問い直す
 - ・写真映像「ハーモニカ長屋から眺めた風景～写真で綴る鹿瀬・昭和電工・阿賀野川～」を上映し、当時の暮らし・文化等を多面的に学ぶ講座
 - ・開催日：8月22日、会場：阿賀野市、参加者：40名

○第4～6回地域再発見講座「～パネルと紙芝居、昔の写真を通してよみがえる～阿賀野川の忘れられた光と影」を開催

- ・紙芝居・写真映像・パネル展示の解説等により、阿賀野川流域の光と影や今後の地域のあり方への考えを深めてもらう講座を開催
- ・開催日：第4回12月25日、第5回1月22日、第6回2月12日
- ・会場：阿賀町の旅館・ホテル（パネル巡回展の展示会場）
- ・参加者：第4回10名、第5回27名、第6回39名

○パネル巡回展「鹿瀬・昭和電工・阿賀野川～光と影を織りなしてきた歴史～」を開催

- ・阿賀野川と生活の関わりや当時の鹿瀬の暮らし、昭和電工の繁栄と公害の発生などを内容とするパネルを作製
- ・12月～3月にかけて阿賀町のホテル・旅館等の10会場でパネル巡回展を開催



(パネル展示「鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」)



(パネル巡回展の様子)

○フォーラム第1回「『資料整備』と『ロバダン!』から始まる阿賀野川え～とこだプロジェクト」を開催

- ・FM事業の取組内容を一般県民や関係者などに広く周知するためのフォーラム
- ・環境学習を始めとした事業の取組状況や新潟大学学生による鹿瀬地域フィールドワーク・レポートなどを実施
- ・開催日：3月27日、会場：新潟市中央区、参加者：42名



(フォーラム第1回の様子)

【H23年度】

○第7回地域再発見講座「阿賀野川と共に生きたあの頃～風土と歴史が織りなす光と影～」を開催

- ・阿賀野川中流域の風土と歴史が生み出した特色ある地場産業の取組を通じて、流域の未来を切り拓き、新潟水俣病と向き合い乗り越えるための地域づくりを考える講座を開催

- ・地域住民との協働により、前半は地元的地場産業の方々から環境に配慮した持続可能な取組の発表、後半は地場産業を巡るツアーを実施
- ・開催日：10月29日、会場：阿賀野市、参加者：40名



(第7回地域再発見講座「阿賀野川と共に生きたあの頃～風土と歴史が織りなす光と影～」の様子)

- 第8回地域再発見講座を開催予定
 - ・下流域の地域資源を題材に1～2月頃の開催予定
- パネル巡回展「阿賀野川と共に生きたあの頃～風土と歴史が織りなす光と影～」を開催予定
 - ・阿賀野川中流域の風土や地場産業の歴史、公害の発生と未来に向けた環境に配慮し持続可能な取組などを内容とするパネルを作製予定
 - ・12月頃～3月頃にかけて中流域（五泉市・阿賀野市）のホテル・旅館・公共施設等でパネル巡回展を開催予定
- フォーラム第2回を開催予定
 - ・FM事業の取組内容を一般県民や関係者などに広く周知するためのフォーラムを昨年度に引き続き年度末頃に開催予定

《情報発信分野》

- FM事業の取組を情報発信し、事業の目指す方向性を幅広く周知

【H21年度】

- 「阿賀野川え～とこだ！ブログ」の管理運営
 - ・FM事業の取組の最新情報や阿賀野川流域の魅力溢れる人・自然・文化・歴史などを紹介



<http://www.aganogawa.info/>

○情報誌「阿賀野川え〜とこだより」を発行

- ・FM事業の各種取組を幅広く発信する定期情報誌を10万部程度作成
- ・阿賀野川流域地域（新潟市、五泉市、阿賀野市及び阿賀町）の各家庭に配付するとともに、新潟水俣病患者や支援団体、図書館などの各種施設にも配付し、幅広く情報発信
- ・「創刊号」：草倉銅山を特集、1月発行
- ・「第2号」：ロバダンを特集、3月発行

○紙芝居「阿賀野川物語」を作成（H20年度：「草倉銅山物語」を作成）

- ・阿賀町の若い女性3人組「こっこ」が現地取材などを重ねて作成
- ・内容は阿賀野川の歴史をたどる中で、本当の豊かさとは何かを問い直す壮大なストーリー
- ・流域の図書館、阿賀町、阿賀野市等の小学校、阿賀町内の旅館・農家民宿などに配付し、教師や旅館等の経営者が読み聞かせを行っている



（紙芝居「阿賀野川物語」）



（紙芝居上演の様子）

【H22年度】

○「阿賀野川え〜とこだ！ブログ」の管理運営

- ・FM事業の取組の最新情報や阿賀野川流域の魅力溢れる人・自然・文化・歴史などを紹介

○情報誌「阿賀野川え〜とこだより」を発行

- ・FM事業の各種取組を幅広く発信する定期情報誌を10万部程度作成
- ・阿賀野川流域地域（新潟市、阿賀野市、五泉市及び阿賀町）の各家庭に配付するとともに、新潟水俣病患者や支援団体、各種施設などにも配付し、幅広く情報発信
- ・「第3号」：阿賀野川え〜とこだ！環境学習を特集、11月発行
- ・「第4号」：パネル巡回展、地域再発見講座を特集、3月発行



（え〜とこだより第4号）

【H23年度】

- 「阿賀野川え〜とこだ！ブログ」の管理運営
 - ・FM事業の取組の最新情報や阿賀野川流域の魅力溢れる人・自然・文化・歴史などを紹介
- 情報誌「阿賀野川え〜とこだより」を発行
 - ・FM事業の各種取組を幅広く発信する定期情報誌を10万部程度作成
 - ・阿賀野川流域地域（新潟市、阿賀野市、五泉市及び阿賀町）の各家庭に配付するとともに、新潟水俣病患者や支援団体、各種施設などにも配付し、幅広く情報発信
 - ・「第5号」：これまで開催したロバダンの特集、10月発行
 - ・「第6号」を年度内に発行予定



（え〜とこだより第5号）

《ロバダン！（炉端談義）》

- 地域の様々な方々で行う少人数（10名程度）の寄り合い（ロバダン）を流域各地で開催し、地域の様々な意見を伺うとともに、FM事業の周知や参加への呼びかけ、流域の地域資源等の発掘等を行う

【H21年度】

- 合計17回開催（上流域7回、中流域5回、下流域5回）
- 主な意見等
 - 〔新潟市松浜地区〕
 - ・昔は新潟水俣病について話せる雰囲気ではなかったので、今の若い人は知らない人が多い
 - 〔五泉市巢本地区〕
 - ・自分たちで生産する阿賀野川の恵みを受けた自慢の農産物を、いつか「阿賀野川ブランド」として売り出したい
 - 〔阿賀町鹿瀬地区〕
 - ・昔は、学校や公衆浴場など全て昭和電工が整備してくれた

【H22年度】

- 合計17回開催（中流域12回、下流域5回）
- 主な意見等
 - 〔多数の地域〕
 - ・新潟水俣病のことはあまり話したくないが、自分たちの地域が疲弊した現状は何とかしたい
 - 〔阿賀野市保田地区〕
 - ・阿賀野川が運ぶ土砂が関係するのか、安田で採れる土は粘土と砂がほどよく混じり、地域ブランド「安田瓦」が発展するなどここは窯業に適した土地

〔阿賀野市村杉地区〕

- ・阿賀野川流域の地域づくりのあり方の一つとして、流域が新潟水俣病に向き合い乗り越えるというコンセプトはとても良いと思う

【H23年度】

- 8回開催済み（10月末現在）、今後も流域各地で開催予定
- 主な意見等

〔五泉市咲花地区〕

- ・新潟水俣病が起きた阿賀野川流域の光と影の歴史については、まず地域住民が学んで、流域の訪問者に伝えられるようになることが大切で、川と向き合い発展する「かわまちづくり」に取り組みたい

〔阿賀野市分田地区〕

- ・昔は川魚をたくさん捕ったが、新潟水俣病発生後は捕らなくなり、川との関わりも少なく寂しい気がする

〔阿賀町石間地区〕

- ・昔は阿賀野川を帆掛け船で物資を運んだが、昭和30年代には川の両岸間の「渡し船」だけに、その後に橋ができるとこれも無くなってしまい、時代とともに川との関係が希薄になった



（ロバダン！（炉端談義）の様子）

3 教育・啓発の推進

■水俣病発生地域間交流事業

水俣病の教訓を次世代に継承するため、水俣病発生地域である新潟、熊本両県の小学生が交流します。

○水俣市の小学生との交流により水俣病や水俣市の取組等について学習

- ・水俣市立水俣病資料館、国立水俣病情報センターなどの関連施設の見学
- ・水俣病に関する学習発表、意見交換会の開催

【H21年度】

○新潟の小学5年生12名（新潟市2校、胎内市1校）が熊本県水俣市を訪問

- ・実施時期：H21年8月4日～6日

〔参加校…新潟市立南浜小学校、新潟市立豊栄南小学校、胎内市立きのと小学校〕
水俣市立水俣第二小学校、水俣市立袋小学校

【H22年度】

○新潟の小学5年生12名（新潟市2校、五泉市1校）が熊本県水俣市を訪問

- ・実施時期：H22年8月4日～6日

〔参加校…新潟市立亀田小学校、新潟市立赤塚小学校、五泉市立五泉東小学校〕
水俣市立水俣第一小学校、水俣市立葛渡小学校

【H23年度】

○新潟の小学5・6年生12名（新潟市2校、阿賀野市1校）が熊本県水俣市を訪問

- ・実施時期：H23年8月9日～11日

〔参加校…新潟市立山の下小学校、新潟市立白山小学校、阿賀野市立神山小学校〕
水俣市立水東小学校、水俣市立湯出小学校、水俣市立久木野小学校

○参加児童の主な感想

- ・語り部さんは、奇病と言われたり色々な嫌がらせを受けたりして、苦しめられたり、悔しかったと思います。水俣で学んだことは絶対忘れないでいようと思います。
- ・私は始め、水俣病患者さんは、本当につらくて大変そうにしているのだと思っていました。でも、みなさんは過去のことよりも未来に向かって前向きに生きていらっしゃるの、驚きとともに少しうれしくなりました。
- ・語り部さんから聞いたお話をたくさんの人に伝えることが大切だと思いました。上手に伝えることができるか不安ですが、一番大切な「命の大切さ」について考えながら水俣の人たちのこと、語り部さんから聞いたことを一生懸命伝えられるようがんばりたいと思います。



(交流事業：水俣市での学習の様子)



(交流事業：水俣市での現地見学の様子)



(交流事業：学習成果の展示)

■新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、熊本から講師を招き、講演会を開催します。

【H21年度】

- 新潟水俣病講演会「新潟水俣病の教訓を次世代に伝える」の開催
 - ・水俣市教員（竹崎永謹氏（水俣市立葛渡小学校教諭））による「水俣市における水俣病学習」についての講演
 - ・水俣市教員及び新潟県教員による水俣病についてのパネルディスカッション
 - ・開催日：11月22日、参加者：103名

【H22年度】

- 新潟水俣病講演会「新潟水俣病の教訓を次世代に伝える」の開催
 - ・水俣市立水俣病資料館語り部（杉本肇氏）による「水俣病患者家族に生まれて」と題した講演
 - ・水俣と新潟の語り部等による



(新潟水俣病講演会の様子)

- 「今、水俣病から子どもたちに伝えたいこと」と題したパネルディスカッション
- ・開催日：11月6日、参加者：84名

【H23年度】

- 新潟水俣病講演会「新潟水俣病の教訓を次世代に伝える」の開催
 - ・NPO法人環不知火プランニング理事長（吉永利夫氏）による「水俣病を伝えるということ…もやい直しに向けて…」と題した講演
 - ・水俣と新潟の地域再生に取り組む関係者や語り部等による「新潟水俣病の経験・教訓と地域再生・融和の取組のこれからを考える」をテーマとしたパネルディスカッション
 - ・開催日：12月10日開催予定、定員：100人

■教師用指導資料作成事業

新潟水俣病の教訓を、次世代を担う小・中学生に継承するため、教師用指導資料や副教材を作成し、各小・中学校での活用を図ります。

【H21年度】

- H20年度に設置した教師用指導資料作成委員会において作成した指導資料素案に基づき、モデル授業を実践
- 実践結果をもとに、素案の検証を行い、指導資料をH21年度に作成
- 県教育委員会が発行する「教育月報」による周知
 - ・H22年3月：「新潟水俣病教師用指導資料集の発行について」

【H22年度】

- 9月に公立の小中学校、特別支援学校等など県内約800校の計約8,000学級に配付
- 10月に3か所（上越、中越、下越）で開催した「新潟水俣病講習会」の機会を活用して、指導資料集作成の意義・活用などについて、寺田喜男作成委員長から講義



（新潟水俣病教師用指導資料集の内容）

- 県教育委員会が発行する「教育月報」による周知
 - ・H23年1月：「新潟水俣病学習の推進～新潟水俣病教師用指導資料集を活用した授業実践に向けて～」
- 小・中学校での活用状況（新潟市を除く）
 - ・小学校 47.8%（199校／416校）、中学校 18.8%（33校／176校）

【H23年度】

- 県教育委員会が発行する「教育月報」による周知
 - ・H24年1月：「新潟水俣病学習の推進～新潟水俣病教師用指導資料集を活用した授業実践紹介～」として、県内の小学校3校による指導資料集を活用した授業実践事例を掲載する予定
- 小学校用副教材「未来へ語りついで」の改訂・配付
 - ・24,450部作成し、県内小学校約540校の5学年児童に配付予定

■小・中学校への環境学習支援事業

子どもたちに、新潟水俣病のような悲劇を繰り返さない力や、差別・偏見をなくす力を身につけてもらうため、小・中学校が家庭や地域と連携して実施する環境学習や人権学習を支援します。

【H21年度】

- 県内10校（ほか新潟市6校）をモデル校に指定し、環境学習を実践
- モデル校
 - ・県モデル校 { 胎内市立中条小学校、糸魚川市立上早川小学校、上越市立下黒川小学校、上越市立谷浜小学校、上越市立里公小学校、上越市立東本町小学校、上越市立春日新田小学校、妙高市立新井南小学校、五泉市立五泉南小学校、五泉市立五泉東小学校
 - ・新潟市モデル校 { 新潟市立東山の下小学校、新潟市立赤塚小学校、新潟市立牡丹山小学校、新潟市立亀田小学校、新潟市立南浜小学校、新潟市立白新中学校
- 研究成果発表会を開催：2月25日～26日
 - ※新潟市も同様に実施。研究成果発表会は県、新潟市が合同で開催。

【H22年度】

- 県内10校（ほか新潟市8校）をモデル校に指定し、環境学習を実践
- モデル校
 - ・県モデル校 { 五泉市立五泉南小学校、五泉市立五泉東小学校、南魚沼市立西五十沢小学校、上越市立東本町小学校、上越市立春日新田小学校、上越市立谷浜小学校、上越市立牧小学校、上越市立里公小学校、妙高市立新井南小学校、糸魚川市立上早川小学校
 - ・新潟市モデル校 { 新潟市立南浜小学校、新潟市立山の下小学校、新潟市立牡丹山小学校、新潟市立白山小学校、新潟市立沼垂小学校、新潟市立小合東小学校、新潟市立赤塚小学校、新潟市立白新中学校

○研究成果発表会を開催：2月16日～18日

※新潟市も同様に実施。研究成果発表会は県、新潟市が合同で開催。



(研究成果発表会の様子)

【H23年度】

○県内12校（ほか新潟市3校）をモデル校に指定し、環境学習を実践

○平成22年度に配布した「新潟水俣病教師用指導資料集」の普及と活用を図るため、モデル校において指導資料集を活用した実践を行い、授業記録等の公表により新潟水俣病学習の普及を図ることとした。

○モデル校

・県モデル校

上越市立東本町小学校、上越市立谷浜小学校、上越市立牧小学校、上越市立柿崎小学校、上越市立里公小学校、妙高市立斐太北小学校、妙高市立新井南小学校、糸魚川市立磯部小学校、五泉市立五泉東小学校、阿賀野市立赤坂小学校、南魚沼市立浦佐小学校、南魚沼市立五十沢小学校

・新潟市モデル校

新潟市立豊栄南小学校、新潟市立山の下小学校、新潟市立沼垂小学校

○研究成果発表会を開催：2月下旬開催予定

※新潟市も同様に実施。研究成果発表会は県、新潟市が合同で開催予定。

○平成 23 年度環境学習支援事業モデル校における学習テーマ

学校名	学習テーマ
上越市立東本町小学校	見つめ つながる「食」・「命」・「人」
上越市立谷浜小学校	地域の宝 桑取川
上越市立牧小学校	水と緑の物語「飯田川さんと交流しよう」
上越市立柿崎小学校	追跡 わたしたちの食
上越市立里公小学校	三和のひみつ 三和・水紀行
妙高市立斐太北小学校	斐太から水を考えよう
妙高市立新井南小学校	川とともに ～ふるさとの水・わたしたちの水～
糸魚川市立磯部小学校	見つめよう、川と海とわたし
五泉市立五泉東小学校	守ろう！五泉の水！
阿賀野市立赤坂小学校	阿賀野川鮭物語～鮭の上るきれいな阿賀野川を大切にしよう～
南魚沼市立浦佐小学校	地域の川や水の不思議 ～水の力～
南魚沼市立五十沢小学校	米作りから環境について考える
新潟市立豊栄南小学校	川の環境や水生生物の調査を通して南浜の自然を考えよう
新潟市立山の下小学校	新潟県の絶滅危惧種の植物を調査して、自然環境を調べよう。
新潟市立沼垂小学校	学校近くを流れる栗ノ木川について自分の課題をもって追求し、栗ノ木川の再生に向けて取り組もう。

※上記学習テーマを実施するにおいて必ず新潟水俣病についての学習を入れる

■新潟水俣病研修事業

県民及び関係市町、その他関係者が新潟水俣病を学習する機会を確保するため、各地域で講習会を開催します。

【H21年度】

- 「新潟水俣病講習会」を開催（2会場）
 - ・講義1：「新潟水俣病について」（講師：県立環境と人間のふれあい館館長）
 - ・新潟水俣病の概要についての説明
 - ・講義2：「毛髪水銀について」

{	講師：国立水俣病総合研究センター
	生化学室長 安武 章氏

 - ・水銀と水俣病の関係や日本人と毛髪水銀についてなどについての講義
 - ・毛髪水銀値測定の実施（希望者）
 - ・開催日：11月4日（中越地域）、11月5日（上越地域）
 - ・参加者：51名（2会場計）

【H22年度】

- 「新潟水俣病講習会」を開催（3会場）
 - ・講義1：「新潟水俣病と生命の大切さについて（新潟水俣病のあらまし）」
（講師：県立環境と人間のふれあい館館長）
 - ・新潟水俣病の概要についての説明
 - ・講義2：「新潟水俣病問題を学ぶことの意義～新潟水俣病教師用指導資料集の利用～」
（講師：上越教育大学教職大学院 特任教授 寺田喜男氏）
 - ・新潟水俣病教師用指導資料作成委員会寺田喜男委員長による、新潟水俣病学習の必要性や教師用指導資料集の活用などについての講義
- ・開催日：10月19日（新潟市・下越地域）、
10月21日（上越地域）、
10月26日（中越地域）
- ・参加者：222名（3会場計）



（新潟水俣病講習会の様子）

【H23年度】

- 「新潟水俣病講習会」を開催（2会場）
 - 各地域の大学と連携して開催
 - ・中越…長岡技術科学大学
 - ・開催日：11月21日
 - ・講義1：「新潟水俣病の現状と課題」（講師：県立環境と人間のふれあい館職員）
 - ・講義2：「阿賀の絆を取り戻す取組～映画「阿賀に生きる」と新潟水俣病～」
（講師：旗野秀人氏（新潟水俣病安田患者の会事務局長））
 - ・定員：180人
 - ・上越…上越教育大学
 - ・開催日：12月6日
 - ・講義1：「新潟水俣病の現状と課題」（講師：県立環境と人間のふれあい館職員）
 - ・講義2：「学校現場における新潟水俣病学習の実践」
（講師：阿賀野市立神山小学校教頭 波多野 孝氏）
 - ・定員：150人
- ※下越地域は、新潟市主催事業への開催協力（新潟医療福祉大、新潟大）

4 民間団体等の活動の促進

■新潟水俣病情報発信事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、民間団体等が提案する新潟水俣病の教訓の情報発信を行う事業に対し、補助を実施します。

【H21年度】

- 1 団体 2 事業に補助（公募）
〔補助事業〕
- NPO 関係者等を対象とした現地ツアー実施
 - ・ 実施時期：2 月
- CSR と新潟水俣病をテーマとした「CSR パネル展と講演会」を開催
 - ・ パネル展：2 月 9 日～21 日
 - ・ 講演会（講師：立教大学教授 関礼子氏）：
2 月 11 日、会場：ふれあい館、参加者：51 名



（「CSR パネル展と講演会」の様子）

【H22年度】

- 1 団体 1 事業に補助（公募）
〔補助事業〕
- 新潟医療福祉大学の学生による「新潟水俣病の現地学習と新潟水俣病患者との交流プログラム」の実施
 - ・ 実施時期：3 月 1 日
 - 参加者：学生及び教員 62 名
 - ・ 交流会での主なコメント
〔患者さん〕 学生さんから元気もらった。
〔学生〕 辛い体験を語ってくれた被害者の方々から、こちらが元気づけられた。
今日の経験は将来の仕事に役立つと思う。



（新潟水俣病患者との交流会の様子）

【H23年度】

- 1 団体 1 事業に補助（公募）
〔補助事業〕
- 新潟医療福祉大学による「学生（QOL サポーター）による総合的な新潟水俣病患者支援プログラム」の実施
 - ・ 11 月～12 月に、新潟水俣病患者との交流や水俣市での現地学習の取組
 - ・ 2 月頃、これらの取組の成果を広く一般県民に情報発信するための「事業報告会」を開催予定

5 ふれあい館の活用と情報発信

■ふれあい館事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、ふれあい館において、講座や講演会、企画展示等を実施するとともに、展示パネルの整備を行います。

- ふれあい館管理運営協議会において、ふれあい館の事業の実施内容や、展示物・展示方法等について検討して実施



(新潟県立環境と人間のふれあい館)

【H21年度】

- 入館者数：35,122名
※開館からの入館者数計：322,005名
- 館内で講演会等や各種パネル展の開催：講演会等8回、パネル展5回
〔主な講演会と参加者数〕
 - ・GW企画：写真展、講演（講師：川本愛一郎氏（水俣病資料館語り部））：65名
 - ・阿賀野川哲学塾（講師：大熊孝氏（新潟大学名誉教授）他3名）：107名
 - ・開館9周年講演会（講師：伊波敏男氏（作家、ハンセン病回復者））：65名
- 語り部の口演会（ふれあい館または小中学校等に出張）の実施
 - ・回数：64回、聴講者：3,237名
- 子ども向け説明パネル等を作成
 - ・大人向け中心の説明となっている新潟水俣病展示コーナーを、子どもにも分かりやすい展示に改良

【H22年度】

- 入館者数：35,105名
※開館からの入館者数計：357,110名
- 館内で講演会等や各種パネル展の開催：講演会等8回、パネル展6回
〔主な講演会と参加者数〕
 - ・GW企画 写真展、講演（講師：川崎那恵氏（大学職員、差別解消活動者））：70名
 - ・阿賀野川哲学塾（講師：大熊孝氏（新潟大学名誉教授）他4名）：102名
 - ・新潟水俣病発生公式確認45年講演会（講師：坂東克彦氏）：95名
 - ・開館9周年講演会（講師：西村幹夫氏（元朝日新聞記者））：43名

○語り部の口演会（ふれあい館または小中学校等に出張）の実施

・回数等：86回、3,773名

○水俣病常設展示パネルの追加・更新

・平成12年までとなっている水俣病常設展示パネルの水俣病年表に、平成13年以降の事項を追加・更新



(新潟水俣病発生公式確認45年講演会の様子)



(語り部口演会の様子)

【H23年度】

○入館者数：22,901名（H23年10月末時点）

※開館からの入館者数計380,011名

・昨年度同月：23,055名

○館内で講演会等や各種パネル展の開催：講演会等8回、パネル展8回を予定

[主な講演会と参加者数]

・GW企画 写真展、講演（講師：尾崎たまき氏（フォトグラファー、水俣湾水中写真家））：46名

・開館10周年企画 映画「阿賀の記憶」上映会・トークショー

（講師：渡辺参治氏（新潟水俣病安田患者の会）、旗野秀人氏（新潟水俣病安田患者の会事務局長））：25名

・開館10周年記念講演会（講師：原田正純氏（元熊本学園大教授））：137名

・新潟水俣病講座（新潟大人文学部）（講師：旗野秀人氏（新潟水俣病安田患者の会事務局長）他3名（新潟水俣病安田患者の会））：146名

・新潟水俣病講座（上越教育大教職大学院）（講師：和泉哲章氏（新潟市立白新中学校教諭））：31名

○語り部の講演会（ふれあい館または小中学校等に出張）の実施

・回数等：48回、1,814名（H23年10月末時点）※昨年度同月：48回、1,673名

○図書室内水俣病関係史料書架、展示等整備

・資料庫に保管されている公開可能な水俣病関係史料の公開・閲覧を進めるため、図書室内に書架と史料展示用ショーケースを増設予定

○水俣病常設展示パネルの追加・更新

・水俣病認定者数、及び特措法関係の記載事項を更新・追加予定

■資料整備促進事業

貴重な新潟水俣病関連資料の散逸、劣化を防ぐため、その収集、デジタル化による保存、データベース化等を実施します。

○過去の新潟水俣病裁判記録等資料のデジタル化や、データベース化を実施

【H21年度】

○デジタル化

- ・裁判資料（第2次訴訟関係）、近喜代一氏日記、鹿瀬工場タイムスなど
- ・件数：5,984件

【H22年度】

○デジタル化

- ・裁判関係記事掲載新聞資料、鹿瀬工場タイムス、機関誌（支援団体、昭和電工関係）など
- ・件数：10,042件（画像枚数換算、映像・音声CD枚数）

【H23年度】

○デジタル化

- ・新潟水俣病関係映像資料、新聞スクラップ、機関誌（4大公害病裁判支援団体関係）など
- ・件数：4,500件（平成23年度見込み）（画像枚数換算、映像・音声CD枚数）

【データベース件数】

- ・3,079件（平成23年10月末現在）

■アーカイブス事業

新潟水俣病の教訓を環境学習等に活用するため、水俣病関連映像や資料を視聴し易く加工・編集し、新潟水俣病に関する映像を制作します。

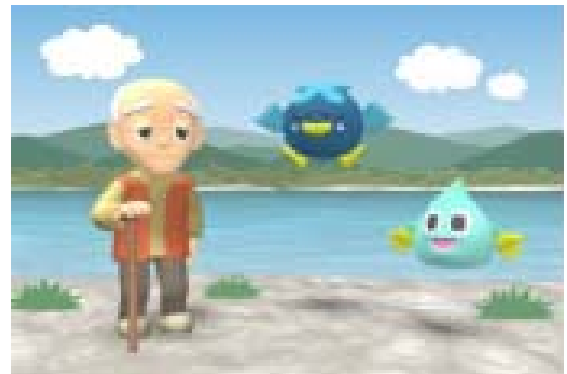
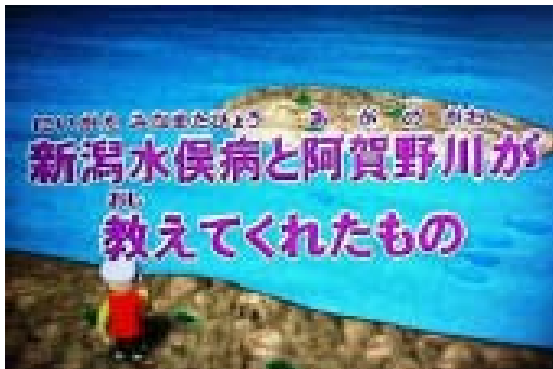
【H21年度】

○新潟水俣病の概要アニメーションを制作

- ・平成22年度に発行した新潟水俣病教師用指導資料集が小学校3学年から指導対象としていることなどに合わせて、小学校3学年以上でも新潟水俣病が理解できるよう、新潟水俣病アニメーションを制作

- ・タイトル：「新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの」
- ・対象学年：小学校3、4年生程度
- ・内容：新潟水俣病のあらましや条例に基づいて行っている地域の絆を取り戻す様々な取組などを、ふれあい館のマスコットキャラクターと地域のお年寄りが子どもたちにも分かりやすく説明するもの

- ・アニメーションは学校の来館時において研修室で上映しているほか、2階新潟水俣病展示コーナーにおいても上映スイッチの増設によって視聴可能とし、学校単位でない来館児童にも視聴可能とした



(新潟水俣病アニメーション「新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの」)

【H22年度】

- 「新潟水俣病関係史料をたどる新潟水俣病の記録」DVDを制作
 - ・環境と人間のふれあい館が保管している、新潟水俣病発生当初からの貴重な史料を、今後の新潟水俣病の教訓の伝承に係る情報発信等に活用するため、被害者の支援に尽力した関係者による振り返り・解説等を記録・映像化した。

- ・タイトル：「新潟水俣病関係史料でたどる新潟水俣病の記録」
- ・上映時間：100分
- ・構成：
 - ・新潟水俣病発生公式確認45年企画講演会（講師：坂東克彦氏）
 - ・坂東克彦弁護士インタビュー「水俣病を振り返る」



(新潟水俣病映像史料「新潟水俣病関係史料でたどる新潟水俣病の記録」)

【H23年度】

- 「新潟水俣病 阿賀野川流域の地域再生・融和の記録」（仮称）DVDを制作
 - ・新潟水俣病発生地域において取り組まれてきた地域の再生・融和に向けての先駆的な取組の記録を過去の写真、映像を使用するとともに、関係者のインタビュー等を編集・映像化する。

- ・プロポーザルにより制作業者を決定
- ・上映時間：90分
- ・3月末完成予定